## レーザー核融合の加熱と閉じ込め に向けた最新の研究成果 Recent research works toward the goal of laser fusion



若手研究者によるプラズマ研究会 平成16年3月17-19日 @日本原子力研究所 那珂研

## Contents



## 1. レーザー核融合の原理

- レーザー核融合の核融合点火には、爆縮による 高密度プラズマの形成と効率よい加熱が不可欠
- 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けたRT不安定性抑制
- 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
- 5. 核融合点火に向けたFIREXプロジェクト
- 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)
- 7. まとめ

#### Introduction

## 高速点火レーザー核融合では、プラズマの圧縮と加熱の 二つが異なるフェーズで行われる





#### 大阪大学におけるレーザー核融合研究主要成果



高利得へ向けた本格的な研究へ 高速点火燃焼実証のための計画(日本) 高速点火法のためのペタワットレーザー建設計画(米国)









## Contents



1. レーザー核融合の原理

# 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けた RT不安定性抑制

- RT不安定性は高密度プラズマの閉じ込めを妨 げる最大の要因であり、憎きRT不安定性を抑 制することが不可欠
- 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
- 5. 核融合点火に向けたFIREXプロジェクト
- 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)
- 7. まとめ

### 高密度爆縮プラズマの実現には、 レイリー・テイラー不安定性の抑制が不可欠



J. Nuckolls *et al.*, Nature (1972)

= One kJ of laser energy may be sufficient to generate an equal thermonuclear energy =

Laser Compression of Matter to Super-High Densities: Thermonuclear (CTR) Applications

JOHN NUCKOLLS, LOWELL WOOD, ALBERT THIESSEN & GEORGE ZIMMERMAN University of California Lawrence Livermore Laboratory

Hydrogen may be compressed to more than 10,000 times liquid density by an implosion system energized by a high energy laser. This scheme makes possible efficient thermonuclear burn of small pellets of heavy hydrogen isotopes, and makes feasible fusion power reactors using practical lasers.

e is THERMONUCLEAR burning occurs extraterrestrially in stars and terrestrially in nuclear explosions<sup>1</sup>. The specific thermonuclear

The electrons in white dwarf cores are Fermi-degenerate, so the pressure is a minimum determined by the quantum mechanical uncertainty and exclusion principles<sup>7</sup>. The pressure of dense hydrogen with Fermi-degenerate electrons is<sup>8</sup>

 $P = \frac{2}{3} n_{\varepsilon} \varepsilon_{F} \left[ \frac{3}{5} + \frac{\pi^{2}}{4} \left( \frac{kT}{\varepsilon_{F}} \right)^{2} - \frac{3\pi^{4}}{80} \left( \frac{kT}{\varepsilon_{F}} \right)^{4} + \cdots \right]$   $h^{2} \langle 3 \rangle > 2^{10}$ 

where  $n_e$  is the electron density;  $\varepsilon_F = \frac{\hbar^2}{8m} \left(\frac{3}{\pi} n_e\right)^{2/3}$  is the Fermi energy; kT is the thermal energy; h is Planck's constant, and m

the electron mass. At 10<sup>4</sup> times liquid density ( $n_e = 5 \times 10^{26}$ ), the minimum hydrogen pressure occurs when  $kT \ll e_F$ , and is ~ 10<sup>12</sup> atmospheres.

#### National Ignition Facility (NIF) 192 beams 1.8 MJ



レーザー核融合の点火・燃焼(臨界)に必要とされるエネルギーが、30年 で2000倍ものインフレを起こした原因は、レイリー・テイラー不安定性

## 爆縮中のターゲットシェルは、重い流体が軽い流体に支えられた レイリー・テイラー不安定な状態





### 高利得高速点火核融合のためには、 固体密度の2000倍に達する圧縮が必要





600 XLD compression had been demonstrated using ultra-smooth plastic shell in the 1990's.

H. Azechi et al., Laser Part. Beam 1991.

2000XLDは過去に達成された 密度の約3倍に達する

## ターゲット内部にHigh-Z物質をわずかに混ぜることで、 ホーラムを必要としないX線駆動爆縮が可能\*

RTI suppression



\*S. Fujioka et al., to be published Phys. Plasma & Phys. Rev. Lett



ダブル・アブレーション構造により、レイリー・テイラー不安定 性が大きく抑制されることが2次元シミュレーションで観測された





## ダブル・アブレーション構造により、レイリー・テイラー不安定 性が大きく抑制されることを実験にて実証





## Contents



- 1. レーザー核融合の原理
- 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けたRT不安定性抑制

## 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱

- 高強度レーザー(1 kJ/1 ps)の導波路として、金コーンを球殻シェ ルに挿入し、高効率な追加熱を実現
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
- 5. 核融合点火に向けたFIREXプロジェクト
- 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)
- 7. まとめ

#### Efficient heating with cone-shell target

コーンを高強度レーザーの導波路として用いることで、 効率よく追加熱エネルギーをコアプラズマまで導くことが出来る



R. Kodama et al., Nature

### Photograph of cone-shell

heating 1 beam / 1.053 μm / 0.5-1ps



CD shell 500μmφ/6-7μmt

X-ray image



GXII for implosion 9 beams / 1.2-2.5kJ 0.53 μm/ 1ns- Gaussian or 1.2 flat top / with RPP

### Efficient heating with cone-shell target

## 高強度レーザーを入射に同期した コア・プラズマからのX線発光強度の増大が観測された



X-ray framing images clearly shows the enforced heating of the core plasma.Enhancement of of the thermal neutrons was proved only when the heating pulse was injected at the maximum compression.





Heating was realized in the time duration of less than 100ps at near the maximum compression.



#### Efficient heating with cone-shell target

## 中性子スペクトルのエネルギー広がりから見積もられた 追加熱コアプラズマの温度は0.9 keV







Enforced heating is realized at a heating power equivalent to the ignition condition on the current.



## Contents



- 1. レーザー核融合の原理
- 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けたRT不安定性抑制
- 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
  - コーン・シェル爆縮では、高温低密度なホット・スパー クが形成されないため、球対称爆縮よりも圧縮密度が 大きくなる
- 5. 核融合点火に向けたFIREXプロジェクト
- 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)
- 7. まとめ

## 米国ロチェスター大学のオメガ装置を利用し コーン爆縮に関する日米共同研究が進行中



OMEGA Laser Facility University of Rochester 60 beams 30 kJ in 3w (0.35 μm)

collaboration with R. Stephens (GA) C. Stockel (LLE, UR) P. J. Jannimagi (LLE, UR)







## X線バックライトを用いて計測された面密度 ( $\rho R = 60 \text{ mg/cm}^2$ )は、 球対称爆縮と比べて約50%高い





870-μm CH shell
24-μm wall
10 atm D2 or DHe3 filled
35 deg half-angle gold cone

最大圧縮時でも金コーンは初期の形状を 十分保っている

.

1

10-psの時間分解能を有する高速X線画像計測技術を用いて コーン・シェル爆縮のダイナミクスを観測



### X-ray emission from core and cone tip

#### Photograph of cone-shell



10-psの時間分解能を有するMIXS法をロチェスター大学に導入

## コーンに向かって高温・低密度なガスが吹き出す様子を 明瞭に観測した

S. Fujioka (ILE. Osaka)

— ► Time									·
HIXS調練、アニメーション	HIXS画像、アニメーション 1 0.5-	HIXS通路、アニメーション	HIXS通知、アニメーション	HIXS議会 アニメーション	HIXS画像、アニメーション	HIXS通線 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS離離 アニメーション	MIXS編件 アニメーション
-0.5-	0- -0.5-	o- -0.5-	-0.5-	-0.5-	-0.5-	0- -0.5-	0= ' <b>(</b>	-05-	-05-
-1- -1 -0.5 0 0.5 ant%image	-1- 1 -1 -0.5 0 0.5 aniSimage	-1- 1 -1 -0.5 0 0.5 ani%image	-1- 1 -1 -0.5 0 0.5 anižimage	-1- -1 -0.5 0 0.5 anižimage	-1- -1 -0.5 0 0.5 ani%image	-1- -1 -0.5 0 0.5	-1	-1- 1 -1 -0.5 0 0.5 1 ani%image	-1- -1 -0.5 0 0.5 1
HIXS画像 アニメーション	ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー	HIXS画像 アニメーション	MIXS語論、アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション		HIXS通路 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション
	-05- -05-	* * ****						-0- -05-	
ani%image	ani%image	ani%image	ani%image	aniSimage	ani%image	ani%image	ani≋image	ani%image	ani≋image
	HUGARA 72 x - > 2 > 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 - 0 -		THUGBEN 72-4->2> 05- 0- 05- 0- 0- 1-1-0-5 0 05 antimap		HUGBAR 7=.X - ≥ a >> 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05 05				HIREASE 72.4->3> 05- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0
MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	MIXSa面的 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS適勝 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS語論 アニメーション
0.5- 0- -0.5- -1- -1- -1- -1- -0.5- 0- 0- 0- 5- 0- 0- 5-	0.5- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0-	0.5- -0- -05- -1-3- -0.5- -0.5-	0.5- 0- 0-0- 1-1- 2-05 do do soltimaps	antimes	0.5 -0.1 -0.1 -1.1 -1.5 -0 os	0.5- 0- -0.5-		55- 0- -05- 	05- 0- -05- -1 <u>-1</u> - <u>-45</u> <u>6</u> <u>0'5</u> ;
HIXS画像 アニメーション	HIXS通路 アニメーション	HIXS語像 アニメーション	MIXS適論 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション
0.5 -0.5 -1.5 -1.5 -0.5 -0.5 -0.5	0	e-e- 	0.9- 0- 0- 1-1- aultimage	05- 0- 0- 1- 1- 1- 0- 5- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0- 0-	0.5- -0.5- 1 -10.5 0 0.5 autimage	0.5- -0.5- -1- -1- -0.5 -0.5	05- 0- -08- 	05- 0- -05- 1 1-105 6 05 1 antTimoge	05- -05- -14- -15- 0 05 :
HIXS画像 アニメーション	HIXS画像、アニメーション	HIXS画像 アニメーション	HIXS画像、アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS通線 アニメーション	MIXS画像 アニメーション	HIXS画像 アニメーション
05 07 -05-	0.5- 0- -0.5-	03- 0- -03-	0.9 <sup>-</sup> 0- -0.9 <sup>-</sup>		0.5- 0- -0.5-	0.5- 0- -0.5-	0.5-  -0.5-	8.5- 0- -0.5-	0.5- 0- -0.5-

中心部に形成されたホット・スパークがコーン側に流れるため、 コーンシェル爆縮の圧縮率は球対称爆縮よりも上昇する S. Fujioka (ILE. Osaka)



## Contents



- 1. レーザー核融合の原理
- 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けたRT不安定性抑制
- 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
- 5. 核融合点火に向けたFIREX-Iプロジェクト
  - 10 kJ/1 PWレーザーを建設し、既存の激光XII号と組み合わせ、点火温度5 keVの達成を目指す
- 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)
- 7. まとめ

## 加熱の効率は、高強度レーザーで生成される 高速電子のエネルギースペクトルに強く依存する



### FIREX: Fast Ignition Realization EXperiment



電子のエネルギースペクトルはレーザーの照射強度に依存 → FIREXプロジェクトには、1 PW (1 kJ/1 ps)を保ちつつエネルギー を10倍にする(10 kJ/ 10 ps)必要がある

## 10 kJ/1 PW LFEXレーザーを現在建設中 FY2006 - 07には加熱実験を開始









2.5 kJのビームを4本束ね、 10 kJ出力を実現

## FIREX-Iでは、100倍に圧縮した高密度プラズマを 点火温度 5 - 10 keVまで加熱することを目指す





Driver Energy for Core Heating,  $E_{dh}$  [kJ] Driver Energy for Core Heating,  $E_{dh}$  [kJ]

FIREX-2では、爆縮用レーザー及び加熱レーザーを 増力(50 kJ + 50 kJ)し、核融合点火・燃焼の実現を目指す

**FIREX-1** 

## FIREX-Iでは、100倍に圧縮した高密度プラズマを 点火温度 5 - 10 keVに加熱することを目指す



0.5MeV Maxwellain Beam ( $I = 1.6E20W/cm^2$ , t = 10ps,  $r_b = 20\mu m$ ,  $E_{db} = 67kJ$ )



2.0MeV Maxwellain Beam ( $I = 6.0E20W/cm^2$ , t = 10ps,  $r_b = 15\mu m$ ,  $E_{db} = 140kJ$ )



## Contents



- 1. レーザー核融合の原理
- 2. 高密度プラズマ閉じ込めに向けたRT不安定性抑制
- 3. コーン・シェル・ターゲットによる高効率追加熱
- 4. コーン・シェル・ターゲットの爆縮実験
- 5. 核融合点火に向けたFIREX-Iプロジェクト

## 6. 第三の点火方式 (Impact ignition)

- 衝撃波を加熱媒体として使うことで、PWレーザー を使わない点火が可能
- 7. まとめ

#### Impact fusion scheme

## 衝撃波をエネルギー輸送媒体とすることで、 高密度プラズマの高効率な加熱が可能





#### M. Murakami et al., submitted to PRL

#### Impact fusion scheme

## 衝撃波加熱を用いることで、100 kJ級レーザーで点火が可能。 今後実験的に検証を進める





#### Impact fusion scheme

## 2次元シミュレーションでは、 衝突によってコア・プラズマが加熱される様子が観測された

S. Fujioka (ILE. Osaka)

### **Before impact**



### After impact



## Summary



- 1. 高密度圧縮に不可欠なRT不安定性の抑制手法が確立された。
- 2. 点火に必要な出力(1 PW)での加熱効率が約20%程度であることが 明らかになった。
- 3. コーン・シェル・ターゲットは高密度爆縮に適した特性を有してお

り、点火・燃焼まで十分適用可能であることが明らかになった。

- 4. 核融合点火温度の達成に向けたFIREXプロジェクトが進行中である。
- 5. 高強度レーザーを必要としない新しい点火手法としてImpact fusion が提案され、理論・シミュレーションによる解析が進められている。